

外国人への日本語ボランティア活動は 4半世紀以上にも

自主的な草の根活動で日本語の学習支援が広がり、現在都内で活動しているボランティア日本語教室は188団体、200教室(TNVN「ボランティア日本語教室ガイド2014東京」から)あり、外国人の言葉の壁をなくすための日本語学習支援を行っています。その日本語学習支援の場では、日本の習慣・文化なども紹介され、多文化共生社会推進の一翼を担っています。

国の施策は、2006年に、総務省の「地域における多文化共生推進プランについて」の通達で示され、各自治体は推進プランを作成・準備・計画しています。

東京都は、2016年に東京都多文化共生推進指針を作成(No.94で紹介)しました。その中に日本語学習支援の充実が記述されていますが、ボランティア日本語教室に対する取り組みは明確になっていません。

活動で浮かび上がる課題

TNVNの情報・意見交換では、ボランティア日本語教室から、直面している主な課題(下記①～⑨)が述べられ、解決に向けての意見交換が行われました。

直面している主な課題

①会場の確保 ②資金の確保 ③教室の運営 ④ボランティア不足とボランティアの高齢化 ⑤ボランティアの養成 ⑥学習者の増加 ⑦学習者と支援者とのマッチング ⑧区市の役所や地域の国際交流協会と協力関係 ⑨地域でのネットワーク

多文化共生社会の推進に向けて 望まれるのは

①②は日本語ボランティア活動に対する

「日本語ボランティア活動」と 多文化共生社会の 推進について話し合いました

多文化共生社会の推進が行政等で検討されている中、昨年(2015年12月6日)と今年(2016年4月24日)、TNVN情報・意見交換会で、日本語ボランティア活動の役割についても意見交換をしてきました。

行政サイドの理解と支援が必要です。学習者の増加に伴い、④⑤⑦が教室運営上の大きな課題となり、①②はさらに 悩みを大きくしています。

⑧は、行政・自治体の担当部署は“言葉の壁”を少なくするために、外国人への日本語学習支援で抱える課題の解消に努力をお願いします。そのためには日本語ボランティアも、役所・国際交流協会と良好な協力関係を築いていくことです。

一方で都内の国際交流協会は一定の事業予算を持ち、活動場所が確保されています。その活動の一環として、日本に暮らす外国人を対象とした日本語講習会を定期的開催したり、交流会も開いたりしています。

日本語学習支援に対する連携の一例

TNVNのスタッフから、行政との良好な連携について紹介がありました。

1986年に、区の担当部署が、外国人への日本語学習支援のためのボランティア養成講座を開設。講座を修了した有志が教室を立ち上げました。

区は場所の確保や活動費の補助を行うと共に、毎年ボランティア養成講座を開催し、現在18団体が活動を行っています。

区が多文化共生推進課係が年に4回会議を開き、区と会議参加団体や、参加団体同士の意見交換・問題解決の打合せが行われています。

区の支援の下、活動場所は同じ場所を

使用し、各教室は曜日と時間を分担して、学習希望者は何時でも何回でもレベルに合わせて日本語を学習できます。又、学習者の為に、区内の日本語教室案内一覧が用意されています。

この例は限られた例で、殆どの地域では、行政が日本語学習支援の意義・必要性を理解しようとせず、教室の確保に対し、一般の趣味グループの会場使用と同一視し、教室の確保に苦労している教室も少なくありません。

多文化共生社会の推進の中で

①各教室は多文化共生社会の推進で果たす日本語ボランティア活動の現状を行政や社会に説明し、日本語学習支援のための環境(ソフト、ハード両面)整備に理解を求め、現在抱えている課題の解決と充実について検討をお願いします。

②ボランティア日本語教室間の交流が少なく、その為、共通の課題解決に向けた意見集約が出来難い現状です。

TNVNは情報・意見交換会等で教室間の交流を深め、学習希望者への対応がより円滑に進められるよう情報提供や支援の連携を考えていきます。

③各国際交流協会や区市の外国人窓口や国際推進係は東京都の指針に基づき日本語ボランティアとの連絡を密にすることを期待します。

パプアニューギニア

—日本民謡を歌う古老と日本アニメを愛する若者たち—

多摩市国際交流センター（TIC）日本語ボランティア（多摩市） 鈴木 馨

パプアニューギニア独立国は、成田から直行便で南下すること6時間半、赤道近くの島国です。世界で二番目に大きいニューギニア島の東半分、ニューブリテン島、ニューアイルランド島、ブーゲンビルと600余の島嶼からなります。ニューギニア島の西半分はインドネシアのイリアンジャヤ州、南はオーストラリア、南東にはソロモン諸島とメラネシアの国々があります。面積は日本の1.25倍。熱帯気候で雨季と乾季に分かれています。1975年にオーストラリアから独立した若い国で、元首はエリザベス女王。国旗には南十字星と極楽鳥が描かれています。人口は700万人と言われ、縮毛で褐色の肌をしたメラネシア系の人たちが住んでいます。

人々は800を超える部族に分かれていて、800超の言語が話され、それぞれが固有の生活様式、習慣を持っています。言葉が通じないため、部族間紛争が絶えず、弓矢による死者も稀ではありません。国家権力は介入できず、紛争解決はCompensationと呼ばれる和平会議が開かれ、賠償は大抵生きた豚で支払われます。魔女狩りも密に行われていて、新聞に載ることはあっても、警察沙汰にはなりません。

ニューギニア島は、海岸地方と山岳地方では様相が大きく異なります。海岸地方は旧宗主国による都市化が進み、山岳地方では自給自足の農耕生活が続けられています。日本との交流は古く、紀州の漁民などが漂流して島嶼に流れ着き、明治以降は真珠とりで財を成した実業家もいました。

南洋群島における日本語教育は、第一次大戦後、旧ドイツ領を委任統治下においてから太平洋戦争に敗れるまでの間、国策として実施されました。しかし、皇民化政策による

強制教育でありながら、パプアの島々には、今なお、日本語を話し、日本統治時代を懐かしがる古老がいます。多言語社会で、部族構成も複雑な社会では、日本語は共通語としてうまく作用したのでしょうか。ゴロカ大学で同僚だったドイツ人言語



初めての書道。

学者が、島で老人の歌を録音して来たというので耳を傾けると、それは「草津音頭」でした。

パプアでは、子供たちは6歳まで部族語に浸かって育ち、小学校に入ると主に英語で教育を受けます。授業料は無料ですが、義務教育ではないため就学しない子供も少なくありません。大学は全国に6校。学生は総数2万人弱で、さしずめ明治時代の大学生といった存在ではないでしょうか。JICAのシニア・ボランティアとして赴任したゴロカ大学にも国中から秀才が集まって来ます。学生たちは、優秀な上に良家の子女が多く、スマホを手に世界の事情に通じていました。植民地として欧米の支配下にあったアジアの多くの国々にとって、日露戦争に勝利し、敗れたとはいえアメリカと対峙した日本は憧れの存在です。同じ植民地政策でも、現地の人たちを奴隷のように扱った欧米人とは異なり、日本の兵隊さんは一緒に穴を掘ってくれた、というような戦時中の淡い逸話の広がりもあって、パプアの人たちは大の日本びいきです。ゴロカ大学人文学部言語文学学科で日本語を学ぶ学生たちも、日本と日本アニメを愛し、「ニッポン大好きで、ニッポンに行きたい」若者ばかりでした。

国立ゴロカ大学を抱えるゴロカ市は、首都のポートモレスビーから北西へ400km。東ハイランド州の州都で人口約3万人。山岳地方にありながら平地に恵まれて物生りがよく、松茸など山の幸にも恵まれています。「世界で一番気候が良いところ」とも言われ、一年中夏の軽井沢のような環境の中、人々はいつも木陰でのんびり過ごしていました。

価値観がまるで異なるパプアニューギニアでの2年間は、私にとって心機一転のいい機会になりました。



パプアニューギニアの日本語教室の生徒



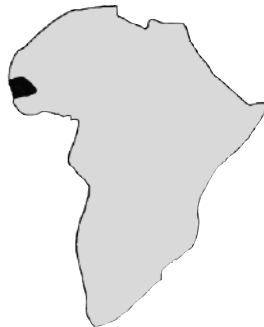
私の国「セネガル」 アフリカの一番西の国

エルハジ・オマール・ンジヤイ

やさしい日本語（江東区）

位置

西アフリカの西南端に位置します。日本から21時間のフライトで、フランスかドバイで乗り継ぎます。首都はダカールで、東京の新宿のような雰囲気です。パリ・ダカールラリーがゆうめいですが、今は、やっていません。



気候

一番寒い時が16℃、一番暑い時で39℃です。日本の梅雨は6月ですが、セネガルは7月から9月に雨がたくさん降ります。その他は、晴れの日が多く、よく海に入って泳ぎます。

言葉

公用語はフランス語です。母国語の「ウオロフ語」はセネガルのみで使われます。学校では、フランス語で数学や歴史や科学を勉強します。英語も勉強します。

暮らし

主食は米です。代表的な料理は「ヤッサ・マフェ（お米の上にかけて食べる）」や「チェブジェン・チェブヤップ（チャーハンのようなもの）」などです。

ヤッサ・マフェは、玉ねぎ、ジャガイモ、ニンジン、グリーンピース、肉などを使います。作り方は、日本のカレーの作り方に似ています。



セネガル料理、ヤッサ・マフェ

材料を炒めて、煮込んで、最後に味をつけます。ニンニクとコンソメとお酢がベースになるので、日本人には食べやすいと思います。肉は、宗教上の理由で豚肉を食べません。ビーフ、やぎ、チキンを食べます。

着ている服は、日本人と変わりませんが、年配の方やイベントのときは、写真のような服を着ます。

家も日本と変わりません。セネガルの郊外には、木で作った家などがあるようですが、私が住んでいたのはダカールなので、マンションやコンクリート建築が主です。



セネガル民族衣装

スポーツ

相撲、サッカー、バスケットボールなどが盛んで、有名です。相撲は土俵ではなくて、スタジアムのような、屋根がないところで行います。日本と同じ「まわし」をつけます。観客はお金を払って、チケットを買って観ます。



セネガル相撲

宗教

ムスリムが95%です。一年に1回のみ1ヵ月間の断食「ラマダン」があります。ラマダンのときは、朝5:00から夜5:00まで何も飲食しません。クリスチャンが5%です。

音楽

「バラク」は、HipHop や R&B などのジャンルのひとつで、セネガルにしかないジャンルの音楽です。太鼓をたたきながら歌います。



月よう日	火よう日	水よう日	木よう日	金ようび	土ようび	にちようび
			一日	ふつか	みっか	よっか
五日	六日	七日	八日	ここのか	とおか	じゅういちにち
十二日	十三日	十四日	十五日 <small>中秋</small>	じゅうろくにち	じゅうしちにち	じゅうはちにち
十九日	二十日	二十一日	二十二日 <small>【秋分の日】</small>	にじゅうさんにち	にじゅうよっか	にじゅうごにち
二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	さんじゅうにち		

〇〇だいがく にほんごクラス しゆくだい をもとに
金子広幸 再編

先ほどの「4日」が出発点。

「4日プラス4日は8日。8日 (Yōka) は、4日 (Yokka) のお姉さんです。Yシスターズ」

「3日プラス3日は6日。6日 (Muika) は、3日 (Mikka) のお兄さん。Mブラザーズ」これは学生の発明です。

3日・6日のとき、3本立てた指を下向きにすると、『M』の字のように見える、と紹介してくれました。

ここから先は、私も参加。カレンダーの「5日」の所に、車の絵を描いて、「Oh! It's a car! (5日)」「Is it my car? (6日)」「なんの car? (7日)」「coconut car! (9日)」とみょうちくりんなストーリーを立てながら、カレンダーにカットを描いていきました。「9日」の所には、トラックの荷台にココナッツが山盛りの絵などを添えるのです。

1日、2日、10日はどうするのって? No story days などと言って、そのまま覚えてもらいました。何のストーリーもないことがむしろ覚えやすかったりするものです。結果オーライなら、ストラテジーなど過程の問題は気にしないでいきましょう。…昭和のお寒いギャグの香りが漂いますが…。

せっかく勉強したら、どこかで使って、形に残したいですね。私はそんなときにも、カレンダーを使っています。「一二三四…十、年月日、火水木金土」の18個の漢字ができると、カレンダーができるのです。これらの漢字の学習が終わったら、図のような枠のシートを準備して、クラスの学生たちに、来年のカレンダーの月の担当を割り振るのです。Aさんは1月と2月、というふうに。

非漢字圏の学生には、上の図の

ように漢字満載のカレンダーを、漢字圏の学生には、全部ひらがなで期日名詞を書いてもらいました。

手作り感満載の来年のカレンダーは、月々にカットを描いて集め、部数を印刷して、クラス全員の学習の成果物としてポートフォリオに。クラスが終わっても、大切にしている学生がいます。

わたしたち日本語使用者が気づかないほど、毎日の生活に溶け込んでいるこの期日名詞。これから日本の社会で暮らそうとしている日本語初心者には、どんなにか高い塀に見えることでしょう。でも、そんな彼らが日本人に混じって共に生活し、交流していくとき、スケジュールを組むのが大好きな日本社会では、期日名詞が大きな意味を持つことに気づいてくれることでしょう。

■様々な文化背景を持つ学習者と

あとむ日本語教室 (新宿区)

代表／小川 あゆみ

「初級は終わったけれどもっと勉強したい」という声に応えようと、高田馬場に教室を開いて11年目を迎えました。山手線、西武新宿線、東西線が利用でき、駅より徒歩2分で便利な場所です。またJR高田馬場駅では「鉄腕アトム」のメロディを耳にすることができます。

初級、中級、上級、漢字の教材を用いて、火曜日、木曜日の週2回、6クラスに分かれて活動しています。

その中の1クラスは長期間在籍している学習者があり、上級の教材も終わりました。次の教材をどうするかと思案し、これまでの教材にも掲載されていた向田邦子を読むことにしました。文庫本で出ている「父の詫び状」から読みやす

そうな内容を選びました。文庫本ではメモ等を記入する余白が少ないため、パソコンで余白の多いものを作成しました。時代背景や文法事項、難しい言葉等を説明しながら進めています。まさか、ここまで読めるようになるとは思っていませんでした。ボランティア冥利です。

教室には、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、中国、台湾、韓国とアジア出身者が多く、エストニア、スイス、ギリシア出身者もあり、多様な文化の中での日本語の勉強です。

また最近「赤ちゃん誕生」が続いています。今年に入って2人誕生。10月と来年1月にはもう2人産まれる予定です。ふっくらしたお腹を抱えての参



加。参加を楽しんでくれているのかとボランティア達もまた幸せな気持ちです。

様々な文化背景を持つ学習者と、少人数ではありますが家庭的な雰囲気の中でこれからも教室を続けていきたいと思っています。

会員団体紹介

Nice to Meet You

いちごの部屋は2008年4月より、3才～中学生の子どもとその保護者を対象に、毎週土曜日10時30分～12時、日本語・学習支援をしてまいりましたが、2016年4月より、新たに木曜日18時～20時も支援日に加えました。これは、土曜日に学校のイベントなどで来室できない子どもたちが、より多くの学習の機会を得るためです。

現在来室しているのは、中国、韓国、フィリピン、ネパール、ブラジル、インドにルーツを持つ子どもたち13人とその保護者2人です。来室者は背景やニーズが異なるため、原則



nice to meet you

■ひとりひとりの子どもに向き合って！

東京YWCA 日本語・学習支援 いちごの部屋 (武蔵野市)

委員長／浅原 由美

として、一対一の対応をしています。

活動後のふりかえりでは、支援内容や子どもの様子を報告し、今後どのような支援が必要なのか話し合います。そして当日の学習内容は、ボランティアメンバー全員に配信されます。

また、毎年数回の研修を実施し、ボラ

ンティアメンバーは学びを続けています。そして子どもたちと、その家族が参加できるお楽しみ会も毎年企画しています。2016年2月には、お餅つき大会を催し、大好評でした。子どもたちが、徐々に自信をつけ、のびのび学ぶ様子を見ることがボランティアの元気の源です。



学習者の声

日本語の勉強は楽しい！

ナオミ・アンダーソン / オーストラリア
町田日本語の会 (町田市)



3年前にオーストラリアからきました、ナオミ・アンダーソンです。

玉川学園中等部・高等部で英語と数学を教えています。私は今、町田日本語の会で日本語を習っています。日本語の授業ばかりでなくて、日本の文化も習っています。佐藤先生たちと一緒にコミュニケーションをしたり、日本の料理を食べたり、日本の小説を読んだりしま

す。だから授業はとてもおもしろいです。その上に佐藤先生は面白い人です。彼は私をよくからかいますけど、心はやさしいと思います。

勉強のほかに、山に登ったり、江ノ島に遠足をしたことがあります。その時に他の先生と一緒に日本語の会話の練習ができた、他の国の人とお話ししたりしました。東京のような大きい都会に住むことは、あまりお友達もできないのでちょっとさびしいです。

いろいろな人との関係は大切だと思います。町田日本語の会では友人を作ることができます。だから、皆さんぜひ町田日本語の会に行ってみてください。



ボランティアの声

佐藤 攻
町田日本語の会 (町田市)

交流・親睦を大切に



ハイ、チーズ!! 上の写真は2016年5月に学習者と支援者で「御岳山」に行った時のものです。メンバーは中国人、オーストラリア人、タイ人、日本人、計9名のミニ国際交流山行です。学習者は曜日、クラスが違うので殆どの方が初対面でしたが、登り始めて2時間もすると皆打ち解け大変楽しい山行でした。

私達の「町田日本語の会」は設立23年、会員43名・学習者は、18カ国84名で(2016年6月末現在)、週6回活動しています。学習支援スタイルは少人数を対象としたグループレッスンで、学習者も入門者から上級者までさまざまです。最近では日本語の資格を取りたいとの希望も増えてきていますので、それらの学習者に対応するため、日本語1・2級取得を目指すグループもあります。

会の運営としては、定例会を年4回行っていて、クラスの状況や学習者、支援者の現状や各クラスの運営について報告を行い、情報を共有しています。定例会には毎回30名前後の会員の方が出席していただきます。

学習支援の外に学習者と支援者、又、学習者どうし、支援者どうしの交流・親睦をも目的としており、行事やレクリエーションなどを積極的に行っています。

各クラスでは花見や茶道体験、年2回の茶話会など、全体の活動として、バーベキュー大会、キノコ狩り、ミカン狩り、一昨年は渋谷から東京タワーまでの、裏道散策を行い大変好評でした。15周年記念行事の時はバス1台借り切り、河口湖で昼食、それから山梨のメルシャンワイン山梨ワイナリーに行きワイン工場を見学してきました。バスの中はカラオケ大会となり、大いに盛り上がり参加した学習者の皆さんにとっても良い思い出になった事と思います。

行事やレクリエーションの時は、学習者の皆さんは本当に楽しそうで、きっと母国に帰ってからも、日本での良い思い出としていつまでも忘れないことでしょう。私達は、これからも「学習支援と同時に楽しい思い出作り」を支援して行きます。

◎「平成28年度在住外国人支援のためのネットワーク会議」 が開かれました

東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課の主催で8月2日(火曜日)午後 東京都消費生活総合センターに、東京各区市町村(17団体)、国際交流協会(9団体)、在住外国人支援団体(23団体:内ボランティア日本語教室12団体)、日本語学校等(2団体)の51団体の関係者が参加しました。

東京都からの報告事項等のもと「地域における外国人に対する支援の現状と課題」として「日本語学習支援」を中心としたグループ討議(1時間)と「まとめ」の発表(40分)がありました。

異なる分野の団体が8グループに別れ、各グループで「日本語学習支援」に関する[取り組み]、[課題]、[改善策]が討議されました。

取り上げられた[課題]は、今号(No.95)のTOP頁に挙げてあるものと同じで、多数のボランティア日本語教室の方々が取り上げていました。

各々団体紹介と[取り組み]紹介があり、[課題]が話されました。しかし参加された団体の中には日本語学習支援に関する予備知識がない団体も多く情報交換で終わってしまったと感じました。

募集! ◎TNVN事務局のスタッフとして お手伝いをお願いします。

会員の皆様にはTNVNの活動にご協力・ご支援を頂いています。心からお礼を申し上げます。

事務局は毎週金曜日14:00~16:00に開き、複数のボランティアスタッフが交代で作業をしています。スタッフは地域のボランティア日本語教室で活動している方々です。

事務局では簡単な事務処理やボランティア日本語教室についての相談で訪れる方への対応をしています。

また「TNVN Network News」を3ヵ月毎に発行し、このために全スタッフが集まり、掲載記事の検校・校正・発送などの作業をします。発送日の作業には臨時に応援をして下さる方がお

られます。作業のかたわら、和やかな雰囲気の中で日頃の活動状況や情報を交換しています。

運営委員会にも参加し、TNVNの進行状況と参加者から最新情報を皆さんで共有しています。TNVNの活動に関わってみようと思う方、一度、気軽に事務局へ見学にいらしゃいませんか。お待ちしております。



◎運営委員に加わっていただきました。

中山 眞理子(NPO 多文化こども自立支援センター)

column 話を聞いてみると...

5月上旬に町田で講演会がありました。テーマは「日本語教育で歴訪したアジア3ヶ国の日本を見る眼」というもので、アジア3ヶ国は中国、スリランカ、フィリピンです。私が意外に思ったのは「3国の対日感情について」で、「中国は良くないがスリランカとフィリピンが大変いい」ということについてです。フィリピンは第2次世界大戦で民間人を含め111万人の死者が出て、戦死者132万人、民間人死者(飢饉による餓死を含む)1,000万人の中国に比べれば1割程度ですが、アジアでは中国以外の他国よりも格段に多く、また人口比では中国よりも少し高いです。対日好感度が高いのが不

思議です。私の質問に対し「遺族等が少なくなかった」と回答がありましたが、今考えてみると、戦争前のフィリピンはアメリカの植民地であり、第2次世界大戦後に独立できたので、日本に対する眼が中国と違うのはこのような条件の違いもあると思います。「中国が良くない」というのは、第2次世界大戦での犠牲者数がアジアで最大ということの他、台湾、満州という自国領土を日本に取られていたという思いがあるだろうから予想できることです。また日本語教師への待遇は中国が他の2国より相当上ということも面白いです。

床呂英一



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時~4時
第5金曜日/休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線-出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆新会員紹介

NPO 多文化こども自立支援センター(中野区)

◆会員数(2016年8月10日現在)

正会員：86団体

個人協力会員：16名

団体協力会員：1団体

賛助会員：4団体

◆編集/大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 眞理

◆レイアウト/鶴田 環恵